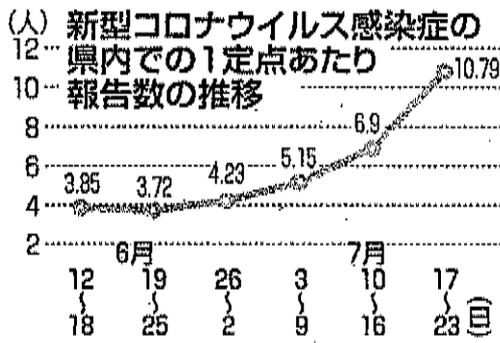


コロナ1定点初の10人超

17〜23日 県内の感染拡大続く

全国的に新型コロナウイルスの感染が広がっている中、県内でも感染が拡大している。県が二十六日に発表した七月十七〜二十三日の発生動向調査によると、一定点医療機関当たりの報告数は一〇・七九人で、定点把握に切り替えた五月八日以降では初めて一〇・〇人を上回った。県はお盆で高齢者と接触するリスクや大勢で集まる機会が増えることから、手洗いや換気など基本的な感染症対策を徹底するように求めている。

県「手洗いや換気徹底を」



一機関当たり「一〇・〇人」は、インフルエンザでは注意報の基準値に相当する。全国では前週の今月十六日時点で既に一〇・〇人を上回っていた。新型コロナウイルスでは注意報や警報などの指標はないが、県は県内の感染状況を「増加傾向にある」と評価している。現在の感染状況は、かつ

(水野志保)

ての全数把握に置き換えた場合、一日当たり県内全体で三百三十人程度が感染していることになるという。全国と同様に、オミクロン株の派生型「XBB」が県内でも主流となっている。一方、医療機関での病床の逼迫はみられず、外来診療でも通常医療への影響は出ていないという。新型コロナ患者のうち、県が重症者や周産期の人らを対象に

確保している七十一床中三十六床（二十五日現在）が使用されている。

新型コロナウイルスは夏に感染拡大する傾向にある。県健康福祉部の養輪克宏副部長は「日頃から感染予防を心掛け、体調を整えるようにしてほしい」と呼びかけた。

七月十七〜二十三日に定点医療機関から報告された感染者数は四百二十一人で、前週の二・五六倍となった。一機関当たりの感染者数は保健所別で、敦賀市など一市二町を管轄とする二州保健所が最も多く、一七・六〇人だった。ほかに、小浜市など一市三町を管轄する若狭保健所（一三・〇人）と、丹南保健所（二二・七五人）も一〇・〇人を超えた。

報告された感染者数を年代別で見ると、二十歳未満が全体の半数を占めているが、他の年代にも幅広く感染が拡大している。